

公民館講座閉講式 成果を披露

令和7年度公民館講座閉講式

2月22日（日）に第47回大和村公民館講座合同閉講式及び講座発表会が村防災センターで開催されました。

今回開催された講座は21講座。それぞれの講座を受講された講座受講生へ修了証及び皆勤賞の授与があり、受講生を代表して、大和浜在住の久永悦男さんに授与されました。

また、読書賞授与もあり、各学校の代表者に授与されました。（以下代表者）

今里小：永田 要さん
名音小：重村 希和さん
大棚小：山本 大智さん
大和小：江崎 心音さん
大和中：岩元 帆久斗さん



作品展示コーナーでは、各講座からすばらしい作品の展示がありました。また、舞台発表では、島唄、フラダンス、カラオケ等の講座発表がありました。



講座生の皆さんが1年間充実した活動を行ってきたことが分かる展示や発表は、見ている方々に大きな感動を与えていました。

講座生の皆さん、ありがとうございました。



中央公民館からのお知らせ

令和8年度の公民館講座の申込開始！】

新年度の公民館講座の申込受付を3月16日（月）～4月17日（金）の期間で行います。

詳しい内容につきましては、村中央公民館 57-2311までお問合せください。

本(ふん)の読(ゆ)む中果てやねん？



豊年祭今昔（下）

前回、豊年祭の「綱引き」のことについて書きましたら、自分たちの集落でやったことがあると聞きました。その綱引きについてですが、豊年祭ではありませんが、小野重朗著『奄美民俗文化の研究』には、次のように紹介されています。

加計呂麻島の武名で、「ミニャクチにアシャゲで神人たちが豊作を祈り、「タハブエ(崇げ言、唱え言葉)」をした後にその前のミャーで「ナーヒキ(綱引き)」をする。その綱は普通の綱より大分太く、長さは15m程の縄を用意しておき、最初はノロたちと唯一人の神人のグジ(口上)で引き合う。女神人は陸側、男神人は海側を引くが、それは形式的に引いて女神人側が勝つ。次は、部落の子どもたちを同様に男女に分けて女の子は陸側、男の子は海側を引く。女側は農業を代表し、男側は漁業を代表するのだといわれ、女側が勝つと稲などの農作物が豊作になり、男側が勝つと豊漁になるといい、女側が勝つのがよいともいう。その後、グジ(宮司)が鎌を持って適当な時に縄を切ってしまう。その切れた縄を男女の子どもが引っ張って浜に行き、龍宮に送るといって海に流し、そのまま海に入ってお互いに海水に突っ込み合いなどをする。

また、芦花部ではダウンガの日を一年で一番よくない日といって、青年たちがワラで左縄をなつてそれを引いて尾を電柱にまいたりしながらエイエイと声を掛けて集落内を回り、終わったら浜に行つて流した。それは集落の厄払いのためだ。

綱は引き合うだけでなく、集落内の悪いものを引きずってかき集め、祓うのにも使われていたようです。豊年祭でも綱引きを行っていたのはその流れかも知れないと思いました。また、奄美大島で今のように本土と同じ「立ち合い相撲」が行われるようになったのは昭和30年代の中頃のように、それまでは「組み相撲」だったようです。私はそれまでの豊年祭は、土俵は造らずに平らな広場に綱引きをした後の綱で丸を作り、そこで組み相撲を取っていたのではないだろうかと思いを巡らせました。ご存知の方は教えてください。



- ・毎月19日は『育児の日』
- ・第3土曜日は『青少年育成の日』
- ・第3日曜日は『家庭の日』

